

足尾銅山跡調査報告書 4

平成24年3月
日光市教育委員会

あし お どうざんあと
足尾銅山跡調査報告書 4

2012.3
日光市教育委員会

序

明治以降の日本の近代化、産業化に大きく貢献した足尾銅山は、近世から続く在来の産業技術を継承しつつも、欧米の最新技術を積極的に導入し銅生産システムを確立しました。

現在、国内の多くの鉱山が閉山となり、その施設が役目を終えて解体、撤去される中、足尾銅山には鉱山施設を中心とした産業遺産が多く点在しています。

日光市では、これら貴重な産業遺産の保存と活用を図るために継続的な調査研究を進めています。

その研究成果として、平成20年7月に日光市文化財調査報告第1集「足尾銅山跡調査報告書」を、平成22年3月には第2集「足尾銅山跡調査報告書2」を、平成23年3月には第3集「足尾銅山跡調査報告書3」刊行いたしました。

このたび、関係者のご協力により第5集「足尾銅山跡調査報告書4」を刊行する運びとなりました。

本書では3編の報告を掲載することができました。青木達也氏、永井護氏は、足尾銅山本山製錬所の変遷を既存の文献のほか古河機械金属所蔵の史料などの文献調査により把握した情報を新たに加え、施設の変容を技術導入、社会情勢の変化、鉱煙処理の試行錯誤などの背景とともに論じられています。岡田昌彰氏は、足尾銅山の課題とする産業遺産の保存・活用に向けて、産業考古学の発祥国イギリスを中心とした地域における産業遺産利活用の事例を、その先進的なアピール手法とともに論じられています。今給黎佳菜氏は、明治政府の殖産興業政策のもと行われていた内国勸業博覧会の研究をされていますが、現存する史料から足尾銅山に関連する部分を抽出し、これまでの足尾銅山史を再考する材料を提供するとともに、博覧会史料の史料的価値について考察されました。本書が産業史研究の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査報告書刊行に至るまで多大なご協力をいただきました古河機械金属株式会社並びに、ご指導、ご助言をいただきました文化庁文化財部記念物課、栃木県教育委員会事務局文化財課をはじめとします関係機関の皆様に深く感謝いたします。

平成24年3月

日光市教育委員会
教育長 前田 博

足尾銅山跡調査報告書 4

目 次

足尾銅山本山製錬所の変遷	青木達也・永井護…………… 1
欧米における産業遺産の活用	岡田昌彰……………19
内国勸業博覧会史料に見る足尾銅山	今給黎佳菜……………43

本報告書の編集は、日光市教育委員会事務局生涯学習課 飯村孝文・高橋敏明・宮本史夫が担当した。

なお、作成にあたり次の諸氏、諸機関にご指導、ご協力を賜った。記して謝意を表したい。
(順不同・敬称略)

河東義之・永井護・小風秀雅・幸崎雅弥・池部清彦・久能正之・山崎義宏・梅澤直樹
古河機械金属株式会社・古河機械金属株式会社足尾事業所
文化庁文化財部記念物課・栃木県教育委員会事務局文化財課